

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	疾患別動作分析学Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼間部3年	学期	前期	教室名	901教室
担 当 教 員	宇留島 嵩人				
実務経験と その関連資格	理学療法士として愛仁会高槻病院(急性期)で2年間勤務。その後尼崎だいま病院(回復期)で3年間勤務し、急性期、スポーツ外来、回復期、療養病棟でのリハビリを経験。運動器認定理学療法士取得済み。運動器疾患を100例以上担当。福祉住環境コーディネーター2級取得。心電図検定2級取得。スポーツ医学検定1級取得。本校にて国家試験対策講義を担当。				
《授業科目における学習内容》					
(目標①)疾患動作の知識修得、(目標②)動作分析にもとづいた評価項目の選択ができる、(目標③)動作分析にもとづいた問題点を文書化できる					
《成績評価の方法と基準》					
レポート課題100%で成績反映					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
●石井慎一郎:動作分析-臨床活用講座-バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践(MEDICAL VIEW) ●山本澄子:基礎バイオメカニクス-第2版-(医歯薬出版株式会社)					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
先に学んだ「正常動作」の知識を生かし、疾患により生じる「異常動作」を学び/比較することで、臨床実習に沿った能力を養います。疾患学の予習、正常動作(バイオメカニクスを含む)の復習は必ず行ってください。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	疾患動作分析学の概要を知る	教科書	復習/次講義の動作(フェーズ)の予習	
	各コマにおける授業予定	疾患動作分析学 総論			
第2回	授業を通じての到達目標	中枢性疾患の動作分析を経験する	教科書	復習/次講義の動作(フェーズ)の予習	
	各コマにおける授業予定	中枢性疾患の動作分析①			
第3回	授業を通じての到達目標	中枢性疾患の動作分析を経験する	教科書	復習/次講義の動作(フェーズ)の予習	
	各コマにおける授業予定	中枢性疾患の動作分析②			
第4回	授業を通じての到達目標	中枢性疾患の動作分析を経験する	教科書	復習/次講義の動作(フェーズ)の予習	
	各コマにおける授業予定	中枢性疾患の動作分析③			
第5回	授業を通じての到達目標	中枢性疾患の動作分析を経験する	教科書	復習/次講義の動作(フェーズ)の予習	
	各コマにおける授業予定	中枢性疾患の動作分析④			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第 6 回	授業を通じての到達目標	整形疾患の動作分析を経験する	教科書	復習/次講義の動作 (フェーズ)の予習
	各コマにおける授業予定	整形疾患の動作分析①		
第 7 回	授業を通じての到達目標	整形疾患の動作分析を経験する	教科書	復習/次講義の動作 (フェーズ)の予習
	各コマにおける授業予定	整形疾患の動作分析②		
第 8 回	授業を通じての到達目標	整形疾患の動作分析を経験する	教科書	復習/次講義の動作 (フェーズ)の予習
	各コマにおける授業予定	整形疾患の動作分析③		
第 9 回	授業を通じての到達目標	整形疾患の動作分析を経験する	教科書	復習/次講義の動作 (フェーズ)の予習
	各コマにおける授業予定	整形疾患の動作分析④		
第 1 0 回	授業を通じての到達目標	神経難病疾患の動作分析を経験する	教科書	復習/分析のポイント予習
	各コマにおける授業予定	パーキンソン病の動作分析①		
第 1 1 回	授業を通じての到達目標	神経難病疾患の動作分析を経験する	教科書	分析のポイント予習/復習
	各コマにおける授業予定	パーキンソン病の動作分析②		
第 1 2 回	授業を通じての到達目標	神経難病疾患の動作分析を経験する	教科書	分析のポイント予習/復習
	各コマにおける授業予定	パーキンソン病の動作分析③		
第 1 3 回	授業を通じての到達目標	神経難病疾患の動作分析を経験する	教科書	分析のポイント予習/復習
	各コマにおける授業予定	パーキンソン病の動作分析④		
第 1 4 回	授業を通じての到達目標	神経難病疾患の動作分析を経験する	教科書	分析のポイント予習/復習
	各コマにおける授業予定	パーキンソン病の動作分析⑤		
第 1 5 回	授業を通じての到達目標	動作分析の概要を理解できる	教科書	
	各コマにおける授業予定	まとめ①		